

令和4年8月5日

伊豆市議会 総務経済委員会 行政視察報告書

総務経済委員会 下山祥二

【行政視察先及び目的】

7月12日(火) 島根県邑南町(人口約10,100人)

「A級グルメ」と「日本一の子育て村」の推進により雇用の創出と移住・定住人口、観光交流人口の増加を目指す町の視察

7月13日(水) 広島県北広島町(人口約17,600人)

町が特産品の販売と観光振興を通して地域をPRする一般社団法人「北広島町まちづくり会社はなえーる」を設立し、北広島町を元気にしていくことを目指す事業の視察

午後 島根県邑南町 ビレッジプライド関連施設の視察

7月14日(木) 広島市内、原爆ドーム、平和記念公園、平和記念資料館視察

- 1 広島駅から山陽自動車道を北に島根県邑南町を目指して進むと車窓から自然の緑と赤瓦のコントラストが鮮やかな石州瓦の屋根で統一された街並みが点在し思わず目を引かれました。

初日は島根県邑南町役場にて 議長、議会事務局長、担当者から A 級グルメ構想、日本一の子育て村を目指す取り組みについて約2時間の予定で質問時間がなくなるほど丁寧な説明を受けました。

【A 級グルメ構想】

邑南町の人口は本年3月31日現在で約10,096人、島根県は北東から南西に横長の地形ですがその中央部かつ広島県との県境に位置しています。山林が86%を占め盆地が多い町で農林業が盛んな町ですが高齢化率は45.2%です。どうにか人口10,000人を維持して10,000人を割らないように町民が同じ方向を向いて事業に取り組んでいるのが伺えた。

邑南町にはハーブ米や高原野菜、石見和牛、石見ポーク、牛乳、キャビア、サクランボなどの果樹、スイーツ等々特産品が豊富にあり独自の食品認定制度を設置し「食」をキーワードにまちづくりを展開してきた。しかしながら一定の評価は得たものの東

京など大都市のレストランやホテル、スーパーなどの需要に応えられるだけの「量」が大きなネックとなった。

そこで発想の転換を図り、平成23年3月に「食」切り口とした「農林商工連携ビジョン」を策定して地域振興を図ることにした。

当時「B級グルメ」や「ご当地グルメ」など食を核とした観光交流事業が盛り上がっている中、邑南町では「食」を地域活性化の重点テーマに位置づけ、農林商工等の異業種が連携して「生産」「加工」「調理」「交流」の各産業分野の革新とそれらを有機的につなぐストーリーとした。

邑南町で生産される良質な農林水産物を素材とする「邑南町でしか味わえない食の体験」をA級グルメと称し

- ① 「食」関連産業の振興と雇用機会の拡大
- ② 観光・交流人口の拡大と定住人口の増加
- ③ 農林水産物の付加価値の向上と販路拡大
- ④ 町民所得の向上

を目指し「A級グルメ立町の実現」を図った。

スーパー公務員の寺本氏の活躍と存在は高く評価されるべきであるが、一公務員に公務員の枠を超えたような裁量を与えた上司や町長の判断についてお聞きしたかったが時間がなく残念でした。

試行錯誤の期間を乗り越え、現在でも半分以上は県外からA級グルメを求めて訪れている。人口も10,000人の人口を維持されておりコロナによる影響も最小限に抑えながら官民が一体となってまちづくりに取り組んできた経緯が伺えた。

今回のA級グルメの行政視察は夕食(自費)も視察の一環であり、里山レストランAJIKURAの石見和牛ステーキには味覚音痴の自分でもその美味には感激した。

翌日の施設視察(食の学校、ヒワココ、千蓼庵、寺本ファーム、ビレッジプライド本社、香木の森公園、香夢里)廃園になった幼稚園、古民家、空き家を活用し決して無駄なく必要以上に背伸びをしない運営に共感もて、伊豆市を中心に伊豆半島全体のA級グルメ構想を立ち上げ観光の活性化が図れる施策ではないか思った。

【日本一の子育て村を目指す取り組み】

邑南町は島根県中央部の山間地に位置し伊豆市と同じく人口の推移が右肩下がりであり町の維持に危機感を持っていた。そこで2011～2020年度を期間として「地域で子育て」をキーワードに「日本一の子育て村構想」を策定した。

目玉施策として

- ・0歳から中学卒業まで医療費が無料
 - ・保育料が第2子目以降から完全無料
- プラス完全給食制、24時間救急受付による安心な医療体制

公立邑智病院は救急病院であり小児科医・産婦人科医常勤で安心して出産できる医療体制が確立されている。

町内で唯一の県立高校の矢上高等学校も数々の支援により偏差値が上がり現在では3年連続志願倍率1.0倍以上と充実している。

住民・地域・行政が一体となって様々な取組を展開していく中、2013～2015年までは社会増となり子育て世代が増加し将来的な人口減少の予測も緩やかになった。

今までの行政視察先でも感じたが今回も「教育の充実」と「安心できる医療体制」の充実にはそれ相応な投資が必要であり持続可能なまちづくりの一丁目一番地であると再認識いたしました。

2 2日目の視察先の北広島町は平成の大合併により4町が合併して誕生した。面積は646.2㎡と中国地方一と実に広大です。アクセスとしては JR 広島駅から約45分と好立地である。

北広島町役場に到着して先ず驚いたのは4階建てで屋上のみならず南側の階と階の間の前面に太陽光パネルが設置されたりっぱな庁舎で圧倒されました。太陽光パネルは20年以上経過しており少々発電効果が低下しているようですが建設当初から先見性があったことに感心いたしました。

庁舎に隣接する北広島町まちづくりセンターにて議長、議会事務局長、町から出向している事務局長からまちづくり会社「はなえーる」の誕生経緯について説明を受けました。

北広島町の課題も他の自治体同様に人口減少・少子高齢化による地域の担い手不足が深刻で事業の減少や雇用の減少により地域経済の縮小化が顕在化してきた。そこで北広島町が抱える地域課題解決に挑戦し、まちに関わる人の笑顔を増やすことを経営理念として経営目標を立てた。

特産品の販売と観光振興を通して地域を PR するため町が5月上旬に一般社団法人として設立した。北広島町と接している元邑南町職員の寺本英仁氏(地域力創造アドバイザー)を迎えスタートしたばかりであり説明も今後の計画が主であったが、ふるさと納税受入額の増額を目指して地域の課題解決のため社会の変化に対応すべく動き出していることに感心しました。町も700万円の補助費を計上しており、やはり官民一体となって町の将来を見据えた課題解決の取り組みが進んでいると町でした。

今回の行政視察の総括としては、邑南町は広島市から山陽自動車道で1時間、また北広島町は45分のところに位置しており、車で一時間なら A 級グルメを堪能したくなったら行きたくなるような大都市からの交通アクセスは大きなポイントであると改めて感じた。

また、過去の行政視察先の自治体同様それぞれの施策が特徴的なものであり発信

力も重要性であることを再確認した。自治体規模とは関係なく、元気で明るく人柄も良く地域の一体感を感じた。伊豆市においても4町が合併して18年経過しており、地元ファーストの市民感情を抑え、地域の連帯感や一体感によるまちづくりを推進して行かなければ取り残されるのではないかと思います。

行政がどんな素晴らしい施策や事業を展開しても、人口減少対策の特効薬とは言えず、移住者・定住者の受入のためには住民が心から郷土を愛する気持ちが重要であり、市民が同じ方向を向いた一体感も重要であると思います。他の自治体に比べ伊豆市は日本中に自慢できる美しい景観を有しており、これは大きなアドバンテージでもあり、自分自身が移住定住したくなるようなまちづくりの推進のため住民・地域・行政が一体になって取り組んでいくべきであると思います。

3 3日目は広島市内に移動し、原爆ドーム・平和記念公園・広島平和記念資料館を視察いたしました。

今まさに世界平和の危機ともいえるロシアのウクライナ侵攻によって世界中が核の脅威に晒されています。唯一の核被爆国である日本の広島、長崎の悲惨な歴史を普段から見聞きしていても実際自分の目で確認した原爆ドームや平和記念公園内の慰霊碑そして広島平和記念資料館で目にした被爆の数々の惨状には言葉を失い大きな衝撃を受け、目を背けたくなるものでした。委員会メンバーの誰一人として管内の写真撮影は出来なかったと思います。人類の愚かさを痛感し、核戦争は二度と繰り返さないため世界中の核(2021年1月時点、13,080)を廃絶し、社会秩序、国際秩序を厳守すべきであることを強く感じた視察となりました。

以上